

地球温暖化リスクに対して 原子力は有効な手段

町連協／講演では、放射線への不安を取り除くためには「測ることが必要」と指摘されましたが、具体的にどのようにならなければならないのでしょうか。

東嶋／「見えないものは不安が増す」ということを前提にすると「見えるようにしたい」ということです。例えばタバコの煙は目に見えるから「避けられる」という感覚があります。しかし、放射線の場合はタバコの煙のように「避けられる」という感覚がないから怖いのです。ですから「測る」ことで「見える化」することと「定量化」することが大事です。

もっと大事なのは、講演でも話しましたが「自分の物差しを持つこと」です。例えば体重が1g増えても気にしませんが、10kg増えたら驚きますよね。日常生活の中で「物差し」を持つ



東嶋和子氏（右）と古泉直紀町連協事務局長

ていると、量の感覚がわかり、不安を取り除けるのです。その意味で、「測ること」が有効だと思っています。

町連協／リスクといえば、地球温暖化のリスクについても関心が高まっています。今年は大雨、台風、地震とたて続けに災害が起こりました。地球温暖化により台風のリスクが一層大きくなるという指摘もあります。今後、日本はどのように取り組んでいくことになりますか？

東嶋／先進国で二酸化炭素排出量が近年大幅に増えているのは日本だけです。なぜ今まで温暖化問題が忘れられたかのようになっていたかという点、東日本大震災と福島第一事故があったからです。原子力発電を止めて火力をフル稼働させたのです。他の国の人と話していても「日本はおかしいんじゃないの？」と言われるくらい、世界的に見たら逆方向に進んでいました。それがパリ協定で外圧が高まったから、「二酸化炭素の排出を減らさなきゃ」と再び言い始めたということなんです。

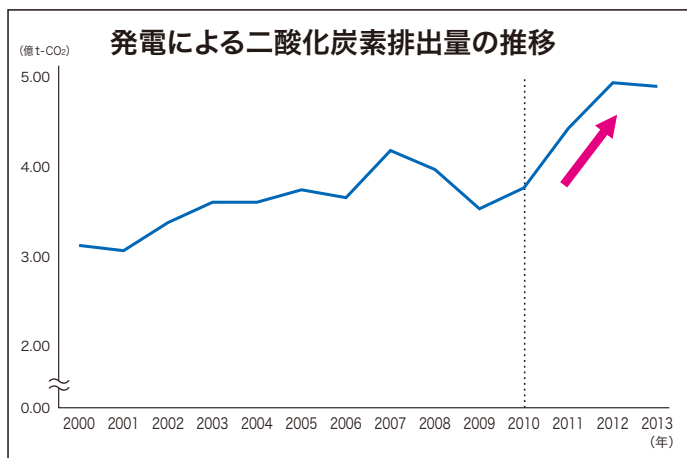
地球温暖化の抑止と適応という二つの面で、ゼロエミッション電源への移行とエネルギーインフラの強靱化が急務になると思います。

町連協／二酸化炭素を削減する手段として原子力発電所が挙げられると思います。原子力発電所を動かすと実際にどれくらいの削減が期待できるのでしょうか。

東嶋／震災前と震災後を比べると一番分かりやすいと思います。原子力は震災前、電源の1/4くらいを担っていましたが、震災後はほぼゼロです。だから、その間に増えた量が、原子力を火力で代替した分という事です。

震災前、2010年の電源構成比は理想的なバランスでした。原子力と石炭・LNG・石油、水力・地熱がバランスよく電源を担っていました。EU全体の電源構成比がこんな感じなんです。

2010年を起点として、原子力がゼロになった2013年との二酸化炭素排出量を比べると、2010年が3・74（億トン）、2013年が4・84（億トン）ですから、原子力が止まったことで、1・10（億トン）くらい増えています。原子力を動かすことで、少なくともその分二酸化炭素を減らせると言っていると思います。



電気事業連合会の資料をもとに町連協が作成

原子力の日にアピール

10月26日は「原子力の日」です。これは、「日本の国際原子力機関（IAEA）への加盟」「日本初の原子力発電の成功」が共に10月26日であったことを記念して制定されました。当会では、この日に合わせて「上関原発とともに」



夢のある未来へ」という私たちの想いが書かれた幟を町内各所に設置するとともに、街宣車によるアピールを実施しました。

「原子力の日」街宣内容

こちらは、上関町まちづくり連絡協議会です。

今日は「原子力の日」です。

原子力は、資源のない我が国において、私たちの生活を支える大切なエネルギーであり、国のエネルギー政策でも重要なベースロード電源として位置付けられています。

上関原子力発電所も、将来にわたる電力の安定供給や地球温暖化防止などの観点から、その重要性は何ら変わりません。

これからも、町民一人ひとりが町の将来を考え、豊かで住みよい上関町の実現に向けて、力を合わせていきましょう。

町連協／ 今回の対談を通じて、地球温暖化対策においても原子力発電が果たす役割が大きいことが改めて確認できました。

上関町では、東日本大震災以降、原子力発電所の建設に向けた準備工事が一時中断しています。上関町は高齢化、人口減少が続いており、雇用の場も多くありません。原子力発電所の建設をきっかけにした豊かな町づくりは、上関町民の願いです。

今回の対談で学んだ内容を参考に、町連協として、今後も理解活動をしていきたいと思っています。本日はありがとうございました。

● 今回の講演会で、東嶋和子先生は、エネルギー源の多様化の重要性を説かれました。● 奇しくも、講演会の翌日、予期せぬ事故によって周防大橋に敷設された水道管が破断し、周防大島町内全域が長期的に断水する事態となりました。町内の水の供給を一か所に依存していたリスクが表面化した形です。● 現在、エネルギー資源の92%を海外に依存している日本もこれと同じではないでしょうか。● 周防大島の断水のような出来事がいつ起こっても不思議ではないと実感すると共に、純国産エネルギーである原子力の重要性を改めて認識しました。(K)

後記